



# 優秀賞 (マンション共用部門)

タイトル

連続性のある公共スペース

タイプ

賃貸共同建

講評

陰気なスペースになりがちな集合住宅の公共ピロティ。この作品は工夫を凝らした照明計画とデザインされたプランターとで、ユニークなグリーンスペースを生んでいる。少々コスミックだが、住民に長く使われ続けて欲しい。

リフォーム前後の写真



外観ファサード・リフォーム後



エントランスホール・リフォーム後



ピロティ・リフォーム後(夜間)

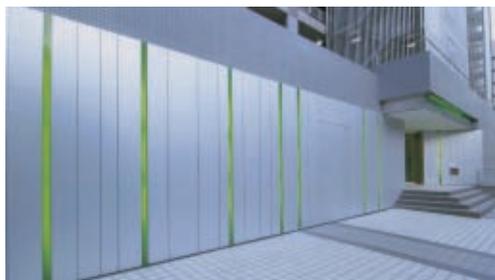


ピロティ・リフォーム後(昼間)

※内照式のスリット・ポールは感知式によって適時に照明が付き、夜間は午前零時で自動消灯する。光源は、全て長寿命のインバーター蛍光灯を使用している。



外観ファサード・リフォーム前



エントランスホール・リフォーム前



外観ファサード・リフォーム前



エントランスホール・リフォーム前



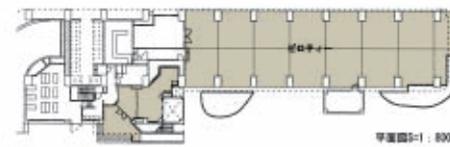
ピロティ・リフォーム前

リフォーム前

リフォーム後

全体と部分のバランス

ピロティ部分は既存の人工芝の老朽化が著しく、前面改修が必要とされた。そのため改修部分の延床は比較的大きく、ピロティは約399㎡、エントランス部分は約80㎡ある。全体の総工費は3999万であり、坪単価は20万強となった。外壁などは対抗性の強い金属素材を使い、内装は周期的な補修によって新しさを保つことのできる設計にすることで、状態としての新しさを継続できる形式を選択した。全体と部分では異なる周期的な変化への対応を計ることで、コストパフォーマンスの良い改修工事を計画している。



リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

・約20年前に建設された集合住宅の共用部の改修工事である。建物のピロティは公開空地となっているが積極的な利用はされてなく、画一的なデザインが寂しげで消極的な共用部を形成している印象であった。改修部分はファサード・エントランスホール・ピロティであり、住民の生活をより豊かに演出するための重要なパブリック・スペースとしての再生である。意匠的には柔軟性のあるルールが異なる空間の連続性を生み出せるように留意し、夕暮れから夜間にかけての照明計画や植栽などにも配慮した。限られた条件の中で多様性のある共用空間の提案を試みた。

・エントランス周辺部分のファサードは、内照式のスリットを施したアルミ製の壁面で再生した。エントランスホールは、アルミから塗装面に切り替わり、既存表面を覆うように空間をリフェイスしている。更に、ピロティは内照式のポールがランダムに点在している。意匠的なルールと機能が少しずつ変化しながら対応することで異なる空間でありながら一体的な様相を生み出している。  
・更に、ピロティの天井にはシルクスクリーンでプリントされたグラフィックと植栽プランターが建築と融合することで、空間の全体像として風景のようなものを作り出そうと考えた。

特に配慮した住宅性能:

データ		構造/築後年数		鉄骨鉄筋コンクリート 造/		20 年	
所在地	東京都港区	構造/築後年数	鉄骨鉄筋コンクリート	造/	20	年	
該当工事面積	580	㎡	該当部分工事費	3,600	万円		
居住者構成	140世帯	夫 (大人 <15歳以上)	人	子供	人	ペット	
設計者	POINT+松井亮建築都市設計事務所		担当者	長岡 勉・松井 亮			
施工者	丹青TDC		担当者	渡部 学			